

令和 6 年度 富谷市立東向陽台小学校 学校関係者評価書

令和 7 年 1 月 3 1 日

学校関係者評価委員会

氏 名

氏 名

氏 名

氏 名

1 総評

(1) 本校の今年度の重点目標とその取組状況について

- ・ 学校、教師、児童それぞれ目標を掲げ、具現化し、毎月、資料として繰り返し目にするように配布していることは、学校運営、教師の資質向上、教師間の共有する為にも良い。
- ・ 「授業の創造」については、日々進化していると感じます。タブレットが導入され、モニター画面があり、先生たちの努力に頭が下がる。
- ・ 学び合う学習の実践はとても大切で、「分かる」喜びや充実感を学級全体で育てていってほしい。
- ・ 「開かれた学校」では、地域の力を生かし、ユネスコスクール加盟校として、他校と交流している。
- ・ 新年度、校長、教頭、主幹教諭が代わった中で学校運営はどうなるのだろうと思ったが、昨年度同様落ち着いた環境の中で「目指す児童像」「目指す教師像」「目指す学校像」すべてに笑顔という言葉が入り、誰もが分かり易い言葉を用い、それに向かうためのより具体的な目標を挙げて取り組んでいる姿勢が感じられた。
- ・ 「安全・安心な学校づくり」の取組について、概ね目標を達成しているものと見ている。

(2) 成果について

- ・ 事故、いじめの未然防止はもとより、事後の対処を心掛け、その日の対応は（報連相）を徹底し共有することを実践している結果、安全安心な学校生活を送れている。
- ・ 学び合う学習（ペア、グループ、コの字型など）は、継続している事により「誰も取り残さない学校作り」を実践し成果が上がっている。
- ・ 日頃の授業の中で、生徒の理解度を確認する事を実践し、生徒は「分からない」事を隠すことなく挙手できている。
- ・ 中学校の合唱コンクールの優勝クラスが来校して歌声を披露してくれたことは素晴らしい取組だ。校長間の交流があつてのこと。
- ・ 「たけのこ祭り」では、子供たちの自主性がよく発揮されていた。
- ・ 教師と児童、児童同士の信頼を育み、お互いが支え合い、認め合い、学び合うことが授業の中のグループでの学びや活動、みんなの発表会やたけのこ祭りでその実践を見ること

ができた。

- ・ 防災指導、安全指導について十分に行われている。
- ・ みんなの発表会を参観した際に、一人ひとりが真剣に演じること、楽しむことが見事に両立していることに感銘を受けた。(どちらも PLAY)

(3) 課題や改善を要する事項について

- ・ アンケートの回収率が半分程で年々下降しているので、上がるような工夫が必要。又、アンケート結果は個々に思いが異なるので「なぜ」を精査しつつも、流されてもいけないと思う。
- ・ ヘルメットの着用、挨拶の徹底は、あらゆる方面から発信し続けるのみで「継続は力なり」である。
- ・ SNS、ゲームの適正使用の講習は高学年では遅い。低学年のうちに。専門家に委託しているようだが、さらに児童、保護者、教師が一同に学べるようにしてほしい。
- ・ 校舎の老朽化は毎年の課題です。子供たちの安全に関わるので見極めが大変だと思います。整理・整頓を心掛けることは「美しさ」もありますが、整理・整頓することで防げる事故があり、自分の安全に繋がることを意識してもらうことも大切だ。
- ・ 「いじめ」の訴えや相談は、その日のうちに対応しているとのこと。それでも保護者アンケートは不満が出さる。難しい問題だが、不満がなくなるように取り組んでほしい。
- ・ 今後の児童数の増加、特別支援の多様化がでてくると思うので、設備の充実、教師人数の確保を願う。
- ・ 設備の老朽化、いじめ問題への対応の一層の充実を期待している。

2 各領域等の評価

領域	評価の観点	評価	意見・改善案等
学校運営	1 開かれた学校づくり	A	・設備の老朽化が散見される。 ・「失敗が許される学級・学校」の合言葉はよいと思う。寛容さがあると、失敗を恐れず取り組める。 ・校長室メール「笑顔」で家庭や地域に情報発信できている。 ・児童を一番に考え、風通しの良い職場づくりと地域との関わりを大切にしている感謝する。 ・危険管理マニュアルについて変更事項など見やすく工夫し最適に活用している。 ・古い施設は丁寧に使用することの大切さを学べる機会でもあるが、事故、衛生面等を考慮して早めの対応をお願いする。
	2 魅力ある学校	A	
	3 施設・設備	B	
	4 安全管理	A	
	5 教職員の資質の向上	A	
	6 特色ある教育活動等	B	
教育課程	1 確かな学力	B	・きめ細やかな指導、分かりやすい授業について保護者の評価がやや低いところが気にかかる。（授業参観では気付きにくいことで…。） ・「分かる授業」への取組が目に見える。机のは配置がとても良い。 ・「たけのこ祭り」が復活したことは喜ばしい。 ・一人ひとりに対応した指導に協力して取り組んでいる。 ・委員会の充実を図り、自主性を育てている。 ・様々な行事は児童の心の成長を育んでいる。しかも、楽しい。一方で少数ではあるがそれがストレスになっている子がいるかも？も見逃さないでほしい。
	2 豊かな心身	A	
	3 特別活動	A	
	4 生徒指導・教育相談	A	
	5 特色ある教育活動等	B	
課題教育	1 環境教育	A	・読書習慣の確立に向けた取り組みはとても良い。 ・図書室が活用されている。 ・「互いに認め合う」ための言葉の用語例を子供たちに示すのも良い。「ダ行は使わずサ行を使う」 ・特別支援教育はきめ細かく対応し、無理なく少しずつ実践している。 ・専門家によるSNSの講習は、低学年から受けさせてほしい。児童だけではなく保護者、教師も一同に学ぶ場を設けてほしい。 ・健康教育「早寝早起き朝ご飯」の、特に「朝ご飯」に力を入れてほしい。大人になっても大切なことである。
	2 情報教育	B	
	3 特別支援教育	A	
	4 図書館教育	A	
	5 健康教育	A	
	6 特色ある教育活動等	B	
地域との連携について		A	・ボランティアのいっそうの活用を希望する。 ・ボランティアさんが来訪したり、介護施設を訪問したりして交流がある。 ・学校、公民館を窓口として多様な取組が行われている。認知度を高めるために広報を継続すると良い（周知）。
いじめ問題への取り組み		B	・この問題への対応体制についての保護者の評価の低下が目につく。 ・学校でできることは常に問題意識を持ち、クラスで話しあったり、一過性のものにしなかったりすることかもしれないが、学校だけで解決できる問題ではないと思う。日頃から家庭との連絡を取り、児童の変化を早めに気付き、協力し合って解決することが大切だと思う。 ・「いじめ問題」は「相談しやすい」と感じてもらえるかどうか解決の入り口かもしれない。 ・いじめは絶対ダメ！を教え、アンケートを上手に活用し訴えがあった時はその日のうちに報連相を合言葉に徹底している。 ・児童会等の主体の取組をしているのは効果があると思う。